

## 令和4年度第1回法政策等フォーラム型実験小委員会議事概要

- I. 日 時：令和4年6月4日（土）14：00～16：00
- II. 場 所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局 ネット会議（ZOOM 使用）
- III. 出席者：中村主査、高嶋委員、佐渡友委員、神澤委員、菊池委員  
事務局：井端事務局長、中村、山田

### IV. 報告事項

#### 1. 「令和3年度法政策等フォーラム型モデル実験授業」の実施報告

(1) 資料②は、5月の総会に提出した事業報告書の法政策等フォーラム型モデル実験授業の部分を抜粋したもので、実験準備に向けた方針の検討を経て、2大学3チームで2021年10月から2022年1月に実施した結果を報告している。実験授業は掲示板に7本のスレッドを立てて、学生間及び有識者と意見交流したところ、69本の書き込みがあった。特に、7本の中で「動物と人間の健康と格差社会」、「沖縄と貧困問題」が有識者との意見交流で成果が見られたことから、その2点について資料③の意見交流に沿って報告した。

沖縄と貧困問題の「地域的貧困を断ち切る－日本で最も貧困を抱える沖縄を救う」については、沖縄在住の研究者(神澤氏)から沖縄県における生活コストの高さや本土との位置関係に係る輸送コストの問題など、学生が気づかないポイントについて指摘がなされた。これに対して学生からもその指摘を踏まえた新たな提案がなされ、それについても神澤氏から新たな情報が提供されるなど、学生と学外有識者との議論が成立した。この議論の成果は、学生による最終発表において十分に活かされ、最終発表における提案に深みを与えたと評価できる。

「動物と人間の健康と格差社会について」については、SDGsの15番「野生動物の保護、回復」と関連させた議論が精力的に行われた結果、全テーマの中で最も書き込み数が多く、学生と学外有識者との意見交換が議論に厚みを与え、わが国の現状と法令の状況、裁判例、諸外国の法令と新しい動き等を把握した上で将来の制度設計につながる共通認識が得られた。

(2) 成果については、各チームがSDGsの観点からクリティカルシンキングが十分に行われた。また、学外有識者との議論が最終発表に活かされていた。当初学生の構想は数行の文章に過ぎなかったが、最終的には詳細な図表や説明から構成された学術的な内容の提案となった。

課題については、発表に際してリサーチクエスチョンを立て、問題意識の起点とチームが到達した結論との間に明瞭なストーリーを構築することを指導する必要がある。有識者との意見交換の活性化を図る必要がある。掲示板の上で待っているような感じなので、自分から掲示板を使って意見を求めるようにしなければいけない。掲示板での書き込みによる意見交流には限界がある、有識者が積極的にかかわっていただけるように、これまでの方針から話し合いを優先するZoomに転換することにした。その上で、テーマに沿って有識者がどのように参加するのか、ある程度議論のシナリオを考えて、議論の立て方を委員会で考えておくようにする。また、参加学生全員でZoomを用いて理解の共有を徹底することが必要で、自分の考えを筋道立てて言えるような訓練につながるという実験授業の目的意識を持たせられるよう、啓発ビデオによる工夫を考えることにした。

#### 2. 令和4年度(2022年度)の事業計画

「法政策等フォーラム型実験小委員会」においては、コロナ禍が続く社会でのSDGsを考える観点から、特定のテーマを設定し、ネット上で複数大学のゼミナールと有識者を交えた「法政策等フォーラム型授業」を試験的に行い、有効性及び教育方法等を研究するとしている。具体的には、「ネット広告の影響を考える」などとして、虚偽などネットによる不正広告が社会に及ぼす影響が大きな問題となっていることから、メディアに惑わされないなど、メディアリテラシーの涵養を目的に学生に考えさせることが話題としてあがっている。その際、専門的な知見を紹介できるようにすると。例えば、メディア関係者、ネット広告の消費者法に関する有識者から問題を投げかけていただき、その現状について学生にどう考えるかという、共通理解を持たせ、進めることなどが話として出ている。有識者から最初にプレゼンテーションを5分から10分程度行い、問題を投げかけるなどにより、参加学生全員と顔合わせを行うなどの工夫が考えられる。運営委員による啓発ビデオを作成することも考える。

#### 3. 事務局が用意した資料⑦「アフィリエイト広告」のトラブル防止の記事

昨日6月3日金曜日の日経産業新聞に掲載されていた「アフィリエイト広告」のトラブル防止の記事で、「成果報酬型広告」とも呼ばれ、広告主に代わってアフィリエイトターと呼ばれる広告サイトの制作

者がサイトを通じて購入やリンクのクリック数など消費者行動などの成果に沿って対価を得ている。より多くの報酬を得ようとして、例えば商品の効果や効能を誇張したり、実際にはない効果載せて、他社の商品よりも優れているとアピールしたりすることがあって、消費者庁としても景表法違反（優良誤認）に当たるとして、販売会社に再発防止などを求める措置命令を出した。今年の2月には消費者庁の検討会が、アフィリエイト広告について論点整理と提言をまとめた報告書を公表した。医薬品などの広告の場合には、医薬品医療機器法とか健康増進法の規制対象にもなってくるので、ネット広告を出すときにかなり気を付けないといけない。

#### 4. 事務局が用意した資料⑨「インターネットと情報倫理」からの抜粋

メディアの情報操作という問題を考える参考として用意した。インターネットを利用して、作為的なアンケート調査を実施し、その結果に多数決原理を適用して意図的な結果を作出するという危険性がある。さらに、情報の内容を注意深く吟味するようになり、結果として、一般的な情報操作に対する覚醒効果を生じさせるという状況を想定することも期待できないわけではない。それを操作する者の意図に問題の原点があり、悪意に基づいてやれば悪い内容になるし、善意に基づいてやれば非常にためになる。「本人には加害の意思がなくても、客観的にはそれが加害の意思があるものと見なされ、情報操作となってしまうこともある」ということで、「真実でないものを見分けるための情報識別能力というものを身につけることが必要」なことを明示している。メディアをどういうふうにするかということ、その情報操作は善の情報操作、悪意に満ちた情報操作もあり、場合によっては意識していなくてもそれがかなり他人に迷惑をかける情報操作もある。そういう視点も入れながら、検討いただきたい。

## VI. 確認および検討事項

### 1. 「2022年度法政策等フォーラム型実験授業」の実施計画について

- \* テーマの確認（「ネット広告の影響を考える」）
- \* 授業シナリオの組み立て方
- \* 有識者候補について
- \* 実験授業の実施期日について

上記の4点について、中村チーム、高島チーム、神澤チーム、菊池チームで、フォーラム型実験授業をすすめることを確認した。以下に、確認された点を中心に整理する。

#### ① テーマの確認

「ネット広告の影響を考える」として、各チームで課題設定・課題解決に向けた議論及び有識者と意見交流の中でメディア、情報倫理、法制度によるネット広告の加害防止、被害防止の可能性と課題について研究する。例えば、違法・不当な広告をどのように見極めるのか、それをどのように規制又は修正させるべきかについて、倫理の観点、実現可能性観点から議論させる。広告は悪いものと決めつけるのではなく、必要不可欠なものであるということを前提に、解決方法が広告を委縮する、阻害するものであってはならないということを念頭に考察させる。その際、法律とインターネットによる広告メディアの社会的責任が混同しないよう、情報操作などによる社会秩序への影響について強調しておくようにする。

#### ② 授業シナリオの組み立て方

中村チームの8コマによる進め方をモデルに考える。授業は4チームでそれぞれ組み立てる。必ずしも8コマでなくてもよいが、実験が他大学のチーム及び有識者と議論しながら解決案をとりまとめることの有効性を検証できるようZoomによる意見交換のシナリオを十全に準備するとともに、掲示板も併せて大いに活用する。

なお、問題認識を共有するため、最初に有識者から、ネット広告の問題についてどのような状況でどのような問題があるというような話を紹介いただき、インターカレッジな授業として学生に政策立案を考察することの意識を醸成させるため、学生・教員・有識者でシンポジウム、カンファレンスをZoomで行う。

問題と考えられるネット広告の種類について、次回までに考えていただく。例えば、「初回無料」、「気持ちの悪い広告」など。

#### ③ 有識者の候補について

高校で消費者法教育を実践の教諭、小豆島消費生活センター相談員の平林氏、消費問題科学者の山形大学天羽教授、フリージャーナリストの鈴木氏、高島委員などとなっている。

③ 実験授業の実施期日について

資料⑧に沿って、とりあえず10月からスタートするというスパンで、平日の夕方とか土曜日の午後を組み合わせつつ、数回 Zoom の会議をやる時間帯の案事前に提示する。

今回は、7月2日、8月6日、9月12日とし、午後2時から行う。8月は、4大学の詳細日程、第1回目の意見交換会のシナリオ、それ以降の回で他大学のチームと意見交流する日程及び有識者を交えた意見交流のシナリオを決定する。実験授業の実施期日は、事前に委員間で調整しておく。

2. 実験に向けた準備とスケジュールについて

資料⑧で検討済みとなった。

3. その他（次回開催日等）

今回は、7月2日午後2時から4チームの実施計画を中心に検討することにした。